

質問 学校給食費の無償化、助成の拡大を

教育長 給食費無償化の拡大や助成の増額は考えていない。



進藤議員



質問 子供の貧困が社会的な課題となるなか、本町は第3子以降のみ無償化し、第1子、第2子は主食分50円を町が負担している。子育て支援の充実に向け、学校給食費無償化の拡大や助成額の拡大を行うべき。

答弁 既に現行制度において負担の軽減策を講じていること、法に定める行政と保護者の原則双方負担の考えから、給食費の無償化拡大や助成の増額は考えていない。

再質問 他の町村では本町に比べ手厚い負担軽減策を実施している。それらの町村を見習い、子育て支援、子供の貧困対策からも学校給食費の更なる軽減施策をすべき。

答弁 それぞれの町が多方面から特色を持って子育て支援施策を講じている。給食費以外の施策も含めて考えようと、本町の子育て支援施策が他の町と比べて劣っているという認識はない。

質問 文化活動をどのように推進していくのか

教育長 各団体の課題を共有し、円滑な活動が行えるよう支援する。



鈴木議員



獅子神楽

質問 人材不足、財源不足により年々文化団体や文化施設の運営が厳しくなる中、本町文化活動の維持や今後のあり方についてどう考えるか。

答弁 少子高齢化等の影響により、様々な課題を抱えている状況の中、会員数が増えた団体や他町村と連携した活動を行うなど、各団体で工夫と努力をしながら運営をしている。今後も、文化団体が円滑な活動が行える環境づくりを進めていく。

再質問 学力だけを向上させる考えから、教育の本質を切替えるべき。文化による町づくりを実践している事例を参考に、文化的要素でつながる町づくりを目指すべきでは。

答弁 世界的彫刻家の五十嵐威暢先生の作品展に、とつごどもゆめクラブの子供たちが見学に行く予定。また、学校教育では毎年芸術鑑賞を行っている。文化や芸術に触れる機会を設けながら文化振興に向け取り組んでいく。

再々質問 本町は十津川村の災害で生まれた町。数々の災害を乗り越えてきた歴史を受け継ぎ、伝統芸能の中にも困難に打ち勝つという精神を反映していくべきでは。

答弁 学校教育では本町の開拓の歴史に学ぶ演劇を披露するなどをしている。いただいた意見も参考にしながら、今後も文化振興に配慮する。

質問 新規就農者が少ない現状をどう考えるか

町長 農業の魅力を発信しながら新規就農者の確保に努める。



白石議員



質問 新十津川町総合戦略での新規就農者数の目標が50人である。しかし、今年度現在で26名と目標数より少ない現状がある。本町は経営継承に比べ、新規で就農する方が少ないが、この状況をどう考えているか。

答弁 総合戦略の目標達成は非常に厳しい状況と考えている。しかし、平成27年度からの3年間で新規就農者の割合は北海道平均を上回っている。親元就農者が3年間で21名という実績は、基幹産業である農業が守られるという観点から大変喜ばしい。今後も、様々な支援制度を活用してもらうと共に、農業の魅力を発信しながら新規就農者の確保に努めていく。

再質問 今年から始まったスマート農業を新規就農者に対してどのように取り組んでいくのか。また、園芸作物における消費者ニーズに合った新たな品種栽培への取り組みや新規就農者にとって重要な仲間づくりへの支援をどのように行うか。

答弁 今年から農業の効率化や省力化につながるスマート農業は今後不可欠と考え、農業関係機関と連携を図り、農業者の人数に合った取組みをしっかりと行ってきたい。また、ピンネ農業公社が行っている、園芸作物への支援内容の周知をしながら基盤を作りたい。最後に仲間づくりは、農協青年部が行ってくれている。仲間づくりは新規就農者を担い手として成長させる基盤となると考え、青年部の活動に期待する。